



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜税関南本牧埠頭コンテナ検査場(仮称) (23) 建設工事 X線コンテナ検査センター	階数	地上3階
建設地	神奈川県横浜市中区南本牧9-3	構造	RC造
用途地域	準工業地域、防火地域	平均居住人員	10 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,600 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年3月 予定	評価の実施日	2023年11月13日
敷地面積	10,037 m <sup>2</sup>	作成者	福林 香
建築面積	1,735 m <sup>2</sup>	確認日	2023年11月13日
延床面積	2,132 m <sup>2</sup>	確認者	福林 香

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

\* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・塩害対策や保全しやすい計画とし、施設の長寿命化を図る。・みなと色彩計画の適合と植栽計画により、地域の景観形成を図る。・ライトシェルフ等により自然エネルギーを有効に活用した計画とする。		<b>その他</b> ・臨港地区の建物として、対塩害や対風対策を行う。
<b>Q1 室内環境</b> ・ブラインドや庇を設置することにより、日射遮蔽や屋光制御を行う。・細かな空調ゾーニングや明るさセンサーを用いた照明制御により消費エネルギーの削減を行う。・内装材は全面的にF☆☆☆☆を使用する。	<b>Q2 サービス性能</b> ・事務エリアは階高を4m確保しゆとりある空間とする。・維持管理しやすい内外装仕上とする。・外部の鉄部や配管は塩害に強くや耐候性のある材料を使用する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・建物の色彩はみなと色彩計画に則ったものとすると共に、植栽により景観形成を行う。
<b>LR1 エネルギー</b> ・ライトシェルフにより自然エネルギーを活用する。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水コマや省水機器の設置により、水使用量の削減を図る。・内装仕上げ材は有害物質を含まない材料を採用する。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・BEI0.6以下を目標とし、環境負荷の少ない計画とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

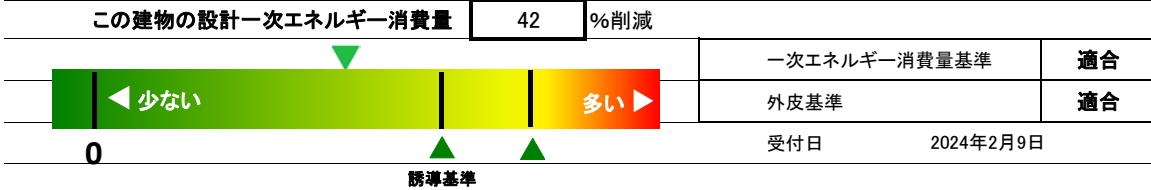


### 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 **横浜税関南本牧コンテナ検査場 X線コンテナ検査センター**

#### 建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

##### ■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



##### ■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

効率の良い設備機器を採用している。

ライトシェルフを採用している。

#### 健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **3**

##### ■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

・細かな空調ゾーニングや明るさセンサーを用いた照明制御により消費エネルギーの削減を行う。

##### ■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

・維持管理しやすい内外装仕上とする。

・外部の鉄部や配管は塩害に強くや耐候性のある材料を使用する。

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

#### 防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **3**

##### ■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

浸水への対策を講じている。

#### 地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **2**

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

・建物の色彩はみなと色彩計画に則ったものとすると共に、植栽により景観形成を行う。

##### 太陽光発電などの導入

\_\_\_\_\_

##### 環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

##### エネルギーマネジメントシステム導入

\_\_\_\_\_



CASBEE横浜2022年版v.1.2

横浜税関南本牧コンテナ検査場 X線コンテナ検査センター

バージョン

CASBEE横浜2022年版v.1.2

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
				<b>Q 建築物の環境品質</b>						
<b>Q1 室内環境</b>										<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.4</b>	0.15	-	-			<b>3.4</b>
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-			-
1.2 遮音				<b>4.2</b>	0.40	-	-			-
1 開口部遮音性能				5.0	0.60	-	-			-
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-			-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-			-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-			-
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20	-	-			-
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.3</b>	0.35	-	-			<b>3.3</b>
2.1 室温制御				<b>3.7</b>	0.50	-	-			-
1 室温	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-			-
2 外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	-	-			-
3 ソーン別制御性	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	5.0	0.38	-	-			-
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	-	-			-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	<b>3.0</b>	0.30	-	-			-
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.5</b>	0.25	-	-			<b>3.5</b>
3.1 昼光利用				<b>3.4</b>	0.30	-	-			-
1 昼光率	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.60	-	-			-
2 方位別開口	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	-	-			-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	0.40	-	-			-
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.30	-	-			-
1 昼光制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	4.0	1.00	-	-			-
3.3 照度	快適・働きやすさ		⑩光環境	<b>4.0</b>	0.15	-	-			-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	<b>3.0</b>	0.25	-	-			-
<b>4 空気環境</b>				<b>4.3</b>	0.25	-	-			<b>4.3</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50	-	-			-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ		⑪空気環境	5.0	1.00	-	-			-
4.2 換気				<b>4.0</b>	0.30	-	-			-
1 換気量	快適・働きやすさ		⑪空気環境	4.0	0.33	-	-			-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ		⑪空気環境	5.0	0.33	-	-			-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ		⑪空気環境	3.0	0.33	-	-			-
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20	-	-			-
1 CO <sub>2</sub> の監視	快適・働きやすさ		⑪空気環境	3.0	0.50	-	-			-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ		⑪空気環境	3.0	0.50	-	-			-
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.2</b>	0.40	-	-			<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.6</b>	0.40	-	-			-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ		⑫機能性	5.0	0.33	-	-			-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
1.2 心理性・快適性				<b>2.3</b>	0.30	-	-			-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
3 内装計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	1.0	0.33	1.0	-			-
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30	-	-			-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ		⑫機能性	4.0	0.50	-	-			-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-			<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震				<b>3.0</b>	0.50	-	-			-
1 耐震性	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-			-
2 免震・制振性能	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30	-	-			-
1 躯体材料の耐用年数	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				<b>3.2</b>	0.20	-	-			-
1 空調・換気設備	防災		⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2 給排水・衛生設備	防災		⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
3 電気設備	防災		⑰信頼性	4.0	0.20	-	-			-
4 機械・配管支持方法	防災		⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
5 通信・情報設備	防災		⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.9</b>	0.30	-	-			<b>3.9</b>
3.1 空間のゆとり				<b>4.2</b>	0.30	-	-			-
1 階高のゆとり				5.0	0.60	-	-			-
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	-	-			-
3.2 荷重のゆとり				<b>5.0</b>	0.30	-	-			-
3.3 設備の更新性				<b>3.0</b>	0.40	-	-			-
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-			-
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-			-
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-			-
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-			-
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2022年版v.1.2

横浜税関南本牧コンテナ検査場 X線コンテナ検査センター

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.2

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.40	-	-			2.3
1		生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-			2.0
2		まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-			2.0
3		地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-			3.0
3.1		地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-			-
3.2		敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-			-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-			3.6
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-			4.5
1		建物外皮の熱負荷抑制		5.0	0.20	-	-			5.0
2		自然エネルギー利用		4.0	0.10	-	-			4.0
3		設備システムの高効率化		5.0	0.50	-	-			5.0
4		効率的運用		3.0	0.20	-	-			3.0
		集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-			-
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-			-
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-			-
		集合住宅の評価		-	-	-	-			-
	4.1	モニタリング		-	-	-	-			-
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-			-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-			3.0
1		水資源保護		3.4	0.20	-	-			3.4
1.1		節水		4.0	0.40	-	-			-
1.2		雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-			-
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-			-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-			-
2		非再生性資源の使用量削減		2.9	0.60	-	-			2.9
2.1		材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-			-
2.2		既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-			-
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-			-
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-			-
2.5		持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-			-
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.20	-	-			-
3		汚染物質含有材料の使用回避		2.9	0.20	-	-			2.9
3.1		有害物質を含まない材料の使用		4.0	0.30	-	-			-
3.2		フロン・ハロンの回避		2.5	0.70	-	-			-
	1	消火剤		-	-	-	-			-
	2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-			-
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-			-
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-			3.2
1		地球温暖化への配慮		3.6	0.33	-	-			3.6
2		地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-			3.0
2.1		大気汚染防止		3.0	0.25	-	-			-
2.2		温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-			-
2.3		地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-			-
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-			-
	3	交通負荷抑制		4.0	0.33	-	-			-
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-			-
3		周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-			3.2
3.1		騒音・振動・悪臭の防止		-	-	-	-			-
	1	騒音		-	-	-	-			-
	2	振動		-	-	-	-			-
	3	悪臭		-	-	-	-			-
3.2		風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.67	-	-			-
	1	風害の抑制		-	-	-	-			-
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-			-
	3	日照障害の抑制		3.0	1.00	-	-			-
3.3		光害の抑制		3.7	0.33	-	-			-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-			-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			-
<b>上記以外の重点項目</b>				-	-	-	-			-
<b>&lt;事務用途&gt;</b>				-	-	-	-			-
<b>知的生産性向上への取組</b>		快適・働きやすさ		⑬知的生産性向上への取組	3.0	-	-			-
<b>&lt;住宅用途&gt;</b>				-	-	-	-			-
<b>健康と安心</b>				-	-	-	-			-
1		化学汚染物質の対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-			-
2		適切な換気計画		健康・安心	⑥健康対策	-	-			-
3		結露・カビ対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-			-
4		犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑦防犯対策	-	-			-